

きほく通信

第33号
2012年
11月18日
発行
難病
患者家族会
きほく

人権フェスタで署名

ビッグホール 11月17日

恒例の「人権フェスタ」が悪天候の中、和歌山市のビッグホールで開催されました。

今回もきほく会員の岡崎真佐美さんが所属する日本精武会のメンバーによる太極拳演武がオープニングを飾り、各ブースでは参加団体の展示・啓発・自主製品の販売などが行われました。

しかし残念ながら強風と雨のため会場外ブースのテントが浮き上がるほどで、昼頃にはやむなくすべて撤収となりました。

そんな中、会場では日本精武会のメンバーによる署名活動が今年も行われ、メインゲート付近で「難病患者のために署名ご協力お願いします」と大きな声で会場に訪れた一般の方々に呼びかけました。

きほくは、和歌山県難病団体連絡協議会のブースをお借りして、事務局森田の不動寺に実る富有柿とあっちゃんの絵葉書と絵本を販売しました。

会場では署名151筆、売上2800円、署名199筆。会からは募金合計44801円、署名199筆。なお日本精武会募金の内訳は次のとおり。

紀伊太極拳教室3000円、葉瑛松江教室5000円、おおみや2000円、気功ムーラン1400円、河南3810円、直川太極拳サークル2000円、

和歌山県難病団体連絡協議会

和難連の仲間⑫

大病院では、採血 それでもダメならモルをして、1週間後再診。ヒネ投与です。モルヒ何時間も待って、診察室の丸い不安定な椅子に座るや否や、「膠原病です。とにかくプレドニンを6錠出します。これが在宅で出せる上限で、これで効かなければ入院です。……で、は、私の「気持ち」な

んかあることさえ知ることなく、淡々とこれからの生活について、注意点など説明してくれていた。

難病患者家族会「きほく」②-2

吉村 由里子

やっと、病名が分かり薬を処方してくれる、これで治る、楽になると思う間もなく、主治医の理由のわからない説明が、病室で1人の私の頭の中に入ることなく続いていきます。ただ思ったのは、「私死ぬの？1年後に死ぬの？」と、自問自答していました。きちんと自分自身の症状と向き合う。これは、患者や家族だけではなく、しっかりとした主治医や周りの環境、ヘルパーさんたちにも関わってもらわなくては、ダメな事なんです。1人では、闘えるものではない、共感し共に生きて行ってくれ、その1つには、家族会や患者会が存在します。



演武終了後、メインステージにおいて日本精武会代表者により難病患者への理解と署名への協力を呼びかけてくれました。(写真上)ご協力ありがとうございました。

普及会3000円、ムーラン遊扇5500円、岩出教室19091円。

【会長】 神森 和子
紀の川市中三谷
【相談室】 0736(77)5161
【事務局】 〒649-6612 紀の川市北涌371
森田方 ☎0736(75)4413